

2

人とさまざまな生物が
共生できるまちづくり

I 環境の現況

本市では、国の特別天然記念物として「八代のツルおよびその渡来地」、自然公園として瀬戸内海国立公園、石城山県立自然公園が指定されるなど、次世代へ継承すべき多くの貴重な生物や自然を有しています。

市内では、八代でのツル保護活動に代表されるように、各地区で地元のボランティアや関係団体を中心として、生物多様性の確保や自然環境保全のため、草刈り、清掃、施設整備、稚魚の放流、外来植物の除去などの様々な活動が行われています。

市では、これらの活動への支援とともに、国・県と連携しながら道路や水路、河川の改修、護岸の改良工事など基盤整備を実施しています。

1. ナベヅルの渡来状況

ナベヅルは、国の特別天然記念物で山口県の県鳥でもあります。八代盆地はナベヅルが本州で唯一越冬する場所ですが、近年、ツルを取り巻く環境の変化により渡来数の減少が危惧されています。

■ナベヅルの渡来数の推移

(単位：羽)

年度	渡来数	うち幼鳥	渡来日	渡去日	備考
昭和 15 年	355				最大渡来数
昭和 48 年	134		10 月 30 日	3 月 8 日	マナヅル 1
昭和 49 年	102		10 月 23 日	3 月 2 日	
昭和 50 年	108		10 月 28 日	3 月 2 日	マナヅル 1
平成 16 年	13	4	10 月 27 日	3 月 19 日	
平成 17 年	13	4	10 月 23 日	3 月 24 日	
平成 18 年	9	2	10 月 25 日	3 月 20 日	
平成 19 年	7	3	10 月 23 日	3 月 21 日	
平成 20 年	4	0	10 月 31 日	3 月 28 日	
平成 21 年	7	2	11 月 2 日	3 月 27 日	
平成 22 年	8	2	10 月 27 日	3 月 31 日	
平成 23 年	6	2	10 月 26 日	3 月 21 日	

2. 国立公園、県立自然公園の指定状況

すばらしい自然の風景を守るとともに、その利用の拡大を図ることで国民が健康を保ち、体を休めることができ、そして学ぶことができるように、国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園が定められています。

市域では、自然公園として「瀬戸内海国立公園」と「石城山県立自然公園」が指定されています。

《2 人とさまざまな生物が共生できるまちづくり》

■瀬戸内海国立公園の指定の状況

(単位：ha)

	第1種特別地域	第2種特別地域	第3種特別地域	普通地域
面積	0.03	58	423	1,124
場所	岩島	太華山、樺島 洲島	黒髪島、仙島、中 ノ島、西ノ島、竹 島	馬島等

出典：面積は山口県森林・林業統計要覧より

■石城山県立自然公園の指定の状況

(単位：ha)

	第2種特別地域	第3種特別地域	普通地域
面積	51	241	357
場所	黒岩峡周辺等		

出典：面積は山口県森林・林業統計要覧より

3. 森林面積の推移

市域では、森林面積が行政区域面積に占める割合は78%となっています。

■林野面積の推移

(単位：ha)

年 度	林 野 面 積		
	合 計	森 林	原 野
平成 7 年度	49,818	49,685	133
平成 12 年度	49,756	49,632	124
平成 17 年度	51,363	51,204	159
平成 22 年度	51,142	50,989	154
平成 23 年度	51,142	50,989	154

出典：山口県森林・林業統計要覧

単位以下の数値を四捨五入したため、合計数値と内訳の計が一致しない場合があります。

4. 人工林、天然林の面積の推移

森林には、苗木の植栽や、播種、挿し木などにより人が更新させた人工林と、自然散布された種子や萌芽などにより更新した天然林があります。

■人工林と天然林面積の推移

(単位：ha)

年 度	合 計	人工林	天然林
平成 7 年度	46,416	23,088	23,328
平成 12 年度	46,450	23,618	22,832
平成 17 年度	47,927	24,374	23,553
平成 22 年度	47,707	24,386	23,321
平成 23 年度	47,707	24,386	23,321

出典：山口県森林・林業統計要覧

但し、タケ、無立木地、更新困難地は除きました。

Ⅱ 基本施策の実施状況

1 生物多様性の確保

目標：野生生物が生育・生息できる環境の保全に努め、生物多様性を確保します。

(1) 野生生物の生育・生息環境の把握

①周南市昆虫マップの活用

周南市昆虫マップ制作部会が周南市に生息する昆虫を実際の生態調査に基づきデータ収集し、平成21年度に制作しました。

自然環境保護の啓発や子供たちの環境学習用として、毎年市内の小学4年生全員に配布しています。



【周南市昆虫マップ】

(2) 野生生物の保護対策の推進

①保護ツルの状況

鹿児島県出水市と連携して、保護ツルが発生した場合、移送・飼育・放鳥によってナベヅルの増羽を図る「八代のツルおよびその渡来地天然記念物再生事業」によるツル移送事業を行っています。

この事業は、文化庁や環境省などとの協力体制のもとに実施しています。

具体的には、八代鶴保護センター（保護ケージ、隔離ケージ、オープンケージ、管理棟）で、保護ツルの受け入れ（移送）、飼育、放鳥を継続的に行っています。

平成23年11月23日に1羽を放鳥し、平成24年3月21日に野鶴と一緒に合計7羽が北帰行しました。



【平成23年度に放鳥したツル】

②ナベヅルのねぐらと餌場の整備

八代におけるナベヅル保護の歴史は古く、日本における自然保護の発祥の地といわれています。毎年、ボランティアの皆さんによって、ナベヅルのねぐらと餌場の整備が行われています。

平成23年度は10月1日に約280人の参加により実施され、八代以外からも多くの皆さんが参加されました。

《2 人とさまざまな生物が共生できるまちづくり》



【寄付金を活用したねぐら整備】



【給餌田整備】

③生きもの与人・共生の里を考えるシンポジウムの開催

平成23年11月19日から20日まで“未来につなごうトキ・コウノトリ・ツルと子どもたち”をテーマに、「生きもの与人・共生の里を考えるシンポジウム」を周南市文化会館で開催しました。

大型鳥類の保護に携わっている4市、佐渡（トキ）・豊岡（コウノトリ）・出水（ツル）・周南（ツル）の子ども達を中心に、国内や韓国から多くの子どもを招いて、KODOMO ラムサール（湿地交流）を行ったほか、韓国から学者を招いてのツルミニシンポジウムも開きました。

また、周南の宝であるナベヅルを国内外に情報発信するため、ナベヅルの魅力を表現するシンボルマークを募集しました。



【シンボルマーク】



【生きもの与人・共生の里を考えるシンポジウム】

④生物多様性対応基盤整備の促進

中須北地区において、豊かな自然環境を保全し、生物多様性の確保に対応した農業用水路や道路を整備しています。（水路2線、道路2線）

平成23年度は、水路整備（1線）と道路整備（1線）を行いました。

《2 人とさまざまな生物が共生できるまちづくり》

⑤環境保全型農業の普及促進

周南市では農業者ぐるみで化学肥料や化学合成農薬の低減を図り、自然にやさしい先進的な営農活動（耕畜連携稲わら交換、冬期湛水）が行われています。（エコファーマー認定 143 人）

また、カバークロップ作付や有機農業などの地球温暖化、生物多様性保全等に効果の高い営農活動が行われています。（取組農家 4 件、取組面積 280 a）

⑥増養殖稚魚等の放流

徳山湾の多様な水生生物体系の保持と水産資源の回復を目的として、マコガレイ、トラフグ、キジハタ、アカガイなどの稚魚を地元漁業協同組合と連携して放流しました。

生物多様性とは

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは 40 億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000 万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という 3 つのレベルで多様性があるとされています。

〈生態系の多様性〉

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があります。

〈種の多様性〉

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがいます。

〈遺伝子の多様性〉

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。

(3) 外来生物の防除対策の推進

西緑地公園では、公園愛護会が月 1 回、除草、清掃、園路整備等の活動とともに、外来植物等の除去を行っています。

◆外来生物とは

もともとその地域にいなかったのに人間の活動によって他地域から入ってきた生物のことを指します。

2 自然環境の保全

目標：天然林や自然海岸など、自然本来の姿を保全します

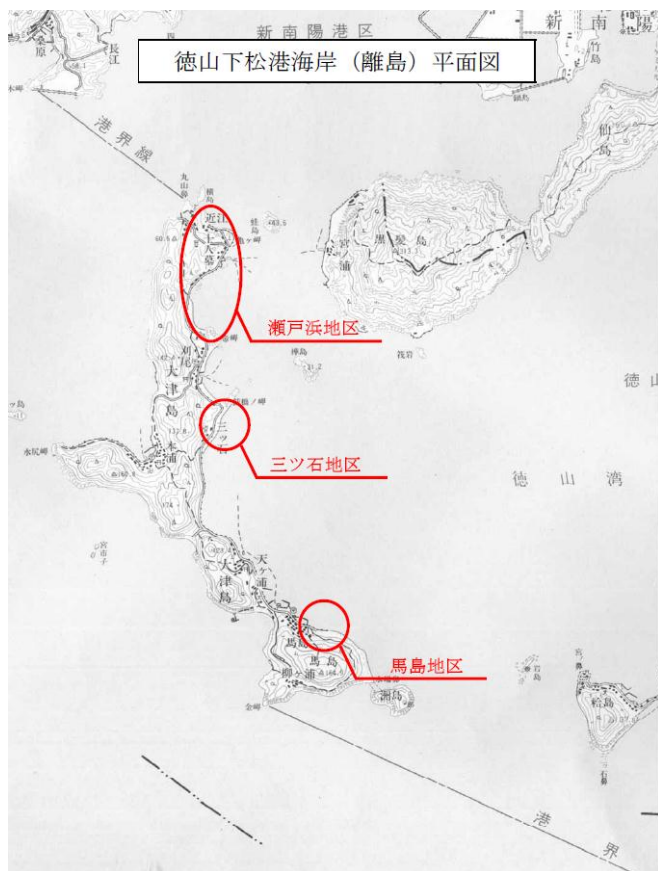
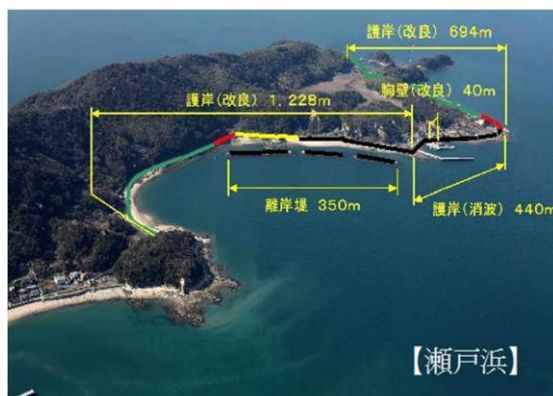
(1) 自然海岸の保全対策の推進

①大津島地区離岸堤、護岸等の改良工事

大津島は周南諸島の西側に位置する離島で、平成 11 年 9 月県内に来襲した台風 18 号により、甚大な高潮浸水被害を受けました。

背後地区の生命・財産の防護を図るべく、平成 13 年度から離岸堤、護岸の改良整備を実施しています。

事業内容	護岸（改良）、護岸（消波）、胸壁（改良）、離岸堤
事業箇所	周南市大津島
事業主体	山口県
総事業費	34 億 4,900 万円
事業期間	平成 13 年度～26 年度
事業進捗率	86.0%
平成 23 年度当初予算	8,700 万円



(2) 自然に配慮した開発の推進

①多自然川づくりの実施

多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するため、河川管理を行うものです。

長穂地区の黒木川は、二級河川錦川の合流点を起点として多自然川づくりと浸水被害対策を目的に、護岸を石積工及び石張工で改修を行っています。

平成23年度は右岸を石積工及び石張工で39m施工しました。



【石積・石張】